

## 会議の要旨（議事録）

会議の名称	第2回鳥栖市総合計画審議会		
開催日時	平成27年10月20日(火)	開催場所	鳥栖市役所 2階第1会議室
出席者数	委員 7人 事務局 5人	傍聴人数	0人
議題	1. 開会 2. 第6次鳥栖市総合計画後期基本計画素案〔第2稿〕について		
配布資料	・会議次第 ・資料1 リーディングプロジェクト ・資料2 第6次鳥栖市総合計画後期基本計画 リーディングプロジェクト体系（案） ・資料3 第6次鳥栖市総合計画後期基本計画素案〔第2稿〕 ・資料4 指標一覧 ・資料5 【第4章】土地利用計画について		
所管課	（課名） 総合政策課 （電話番号） 85-3511		

## 第2回鳥栖市総合計画審議会 議事録

### 1 開会

事務局（総合政策課長）

- ・ 本日は、第6次鳥栖市総合計画後期基本計画におけるリーディングプロジェクト、同じく素案第2稿、指標一覧及び土地利用計画をご審議いただきたい。
- ・ 本日の審議をふまえて、10月29日から11月25日の期間でパブリック・コメントを実施する。
- ・ パブリック・コメント終了後、11月下旬から12月上旬頃に第3回審議会の開催をお願いしたい。

### 2 リーディングプロジェクトについて

(戸田会長) リーディングプロジェクト7のみ、1から6までの立て方と異なっているが。  
(事務局) リーディングプロジェクト7については、“鳥栖発”創生総合戦略を位置付けているものであり、総合戦略において別途KPIを設定し検証する必要があるため、他のリーディングプロジェクトと立て方が異なっている。

(戸田会長) 各リーディングプロジェクトのタイトルが分かりやすそうで分かりにくい。多岐に渡る分野を一言にまとめた結果、抽象的な文言になっていないか。

(事務局) 前期基本計画における11件のリーディングプロジェクトを、後期基本計画素案では7件とした。この理由は、一点目に庁内協議において簡略化すべきという意見があったこと、二点目に前期基本計画ではリーディングプロジェクト内で複数の部の取り組みが混在し、進行管理が行いにくいという面があったため、組織再編もあったことから、部ごとに一つのリーディングプロジェクトを割り当てるような合理化を行った。このため、リーディングプロジェクトの名称は、各部が所管する全事業を一言で表現する必要が生じたため、幅を持たせた表現となった。

(戸田会長) リーディングプロジェクトで複数使われている「まちづくり」という言葉について、一部は「まちをつくる」と表現した方が馴染むのではないか。

(事務局) リーディングプロジェクト3から5については「まちをつくる」に修正したい。

(戸田会長) リーディングプロジェクト2の「まちづくりの拠点プロジェクト」とは何か。

(事務局) 鳥栖駅周辺整備事業を示すものであるため、「鳥栖の顔作りプロジェクト」に修正したい。

(中村委員) 観光について、野球、バレー、ソフトテニスなどのスポーツ合宿を通じて鳥栖市を来訪される方も多い。リーディングプロジェクト3で観光、同4でスポーツと別々に位置付けられているため、縦割りの印象が感じられる。スポーツ×観光などの視点も表に出していくべきでは。

(事務局) リーディングプロジェクト3に観光に関する文章を追加したい。

(徳淵委員) 前期基本計画では「観光客の受入体制づくり」が、リーディングプロジェクト2の「九州をリードするまちづくりプロジェクト」に位置付けられているため、今回もリーディングプロジェクト2に入るのではないか。

(事務局) 部ごとに一つのリーディングプロジェクトを割り当てたため、後期基本計画では観光を所管する産業経済部のリーディングプロジェクト3に移す必要があった。

(中村委員) 個票について、鳥栖市観光コンベンション協会に「協力」となっているが、もっ

- と踏み込んでいくべきでは。
- (事務局) 現在お示ししている個票は前期基本計画のものであり、後期基本計画の個票はこれから作っていくことになる。
- (芹田委員) 部局ごとにリーディングプロジェクトを立てると、本来リーディングプロジェクトに位置付けるべきものが漏れてしまうおそれがあるのではないかと。例として、リーディングプロジェクト3の交通に関する部分では、車に乗れる人が前提となっており、ミニバスなど交通弱者への配慮の視点が欠けている。鳥栖市と他市間の移動は便利だが、市内を移動する場合はそうでもない。
- (事務局) リーディングプロジェクト3に、「交通弱者の移動手段の確保に努めます(1-6-3)」を追加したい。
- (芹田委員) 同じく、リーディングプロジェクト5では、教科日本語などには触れられているが、多文化共生、ユニバーサル社会、障がい、人権などに関する教育を推進していくという視点が入っていない。教育において欠かすことの出来ない視点であるため、鳥栖市は、子どもの時からこうした教育を推進していきますということを加えておくべき。
- (事務局) リーディングプロジェクト5に、「豊かな心、健全な身体をはぐくむ教育の充実を図ります(4-1-2)」を追加したい。
- (藤委員) 教育の基礎となるのは家庭教育。近頃、本来家庭で培うべき人間教育が学校に任せられ過ぎではないか。家庭教育がしっかりしていれば、色々なことが上手くいくのではないかと思う。父母教育などを通じて、家庭をケアという視点が弱いのではないかと。
- (事務局) 以前、親育て講座のアイデアはあった。教育をはじめ様々な場面で家庭は重要な位置にある一方で、行政が踏み込みにくい部分でもある。審議会からの答申等において、まちづくりに必要な視点として触れていただければと考える。
- (増田委員) 家庭教育や父母教育は非常に大事だと感じている。区長として子どもクラブの世話をしているが、参加を呼びかけても「区長が世話をしてくれるなら乗っかります」という冷たい親がいる。また、山笠に向けて子ども達の声出し練習をする際に、公民館を走り回って練習の邪魔をする我が子を叱れない親がいる。
- (事務局) 家庭のあり方は様々であり、あるべき家庭像を行政が描くことは難しい。一方で家庭は社会の基礎をなす重要なものであることから、市としての家庭への関わり方については次期総合計画への課題としたい。
- (徳淵委員) リーディングプロジェクト3の「地域ブランドの強化」という言葉を農作物に対して使われているが、「地域ブランド」は、より広い意味で地域全体の魅力を指し示す言葉ではないのか。
- (事務局) ご指摘の通り「地域ブランド」という言葉は意味合いに幅があるため、農業振興について触れている当該部分は「農作物のブランド化」に変更したい。
- (藤委員) リーディングプロジェクト1の「まちづくりの拠点としての利便性の向上を図ります(1-4-1)」について、「鳥栖の顔づくりを図ります」に変更してはどうか。
- (事務局) 当該箇所は鳥栖駅周辺整備事業を指しているため、「鳥栖駅周辺の利便性の向上を図ります」に変更したい。

- (戸田会長) リーディングプロジェクト1の3段落目の「地域」とは、何を示しているのか。  
(事務局) まちづくり推進協議会などを指しているため、「地域組織」に変更したい。
- (戸田会長) そもそも、鳥栖市は協働が進んでいると言えるのか。  
(事務局) まちづくり推進協議会を中心とした協働の取り組みが定着するのに10年かかるといわれている。鳥栖市では、まちづくり推進協議会を立ち上げてまだ5年であり、まだまだ途上にあると考えている。また、鳥栖市は人口などの面で恵まれており、市民活動に「参加せざるを得ない」土壌が少ない点もある。
- (芹田委員) 地縁組織に比べると、NPOなどの志縁組織に対しては市の支援が少ない点について、不満を感じている志縁組織は多い。市は「協働は市民協働推進課に」となりがちであるが、本来、支援組織それぞれが持っている課題ごとに担当課とやり取りできるような環境であるべきである。支援組織からすると、市役所に対する敷居の高さは否めない。市民協働を市としてどのように位置付けていくのか、根本的なところから変えていかなければならないのではないのか。  
(事務局) 本来、様々な支援組織がそれぞれの課題に応じて、市役所と気軽に事業に取り組める環境をつくっていくべきであると考えている。
- (戸田会長) 協働が進む上で、最もインセンティブを得られるのは市役所ではないかと考えられるため、こうした環境づくりが進んでいくよう考えていく意義は大いにある。
- (能本委員) リーディングプロジェクト全体について、まとまりに欠けるのではないのか。リーディングプロジェクト3をみると、「活力とにぎわい(産業)」と「安全安心(道路整備)」が一緒にされており、悪く言えば羅列である。市の組織体制に沿った形で章立てしたことが明らかに見て取れてしまう。本来、リーディングプロジェクトは部署横断的なものである。仮に部ごとで分けるのであれば、基本目標だけで割り振ればよい。せめて、産業と道路整備は別立てにして、1キーワード1プロジェクトで整理するべきではないのか。  
(事務局) 枝番を追加するなどして再整理したい。
- (中村委員) 市公式ホームページに掲載してある「部課長の仕事宣言」を見ながら素案を読んだので、逆に今の素案の章立ての方が分かりやすく感じた。

### 3 第6次鳥栖市総合計画後期基本計画素案〔第2稿〕について

- (芹田委員) 男女共同参画について触れているのであるから「男性(女性)だから」は「男性だから・女性だから」などの表現に改めるべき。(P54、P70)  
(事務局) 修正する。
- (芹田委員) 障害者差別解消法が制定され、行政機関や事業所は「合理的な配慮」が的確に行えるような環境整備に努めなければならないとされているため、これに関連した文言を加えるべきではないか。(P37)  
(事務局) 担当課と協議したい。
- (芹田委員) 公共交通について、「使いやすさ」という指標があると良い。例えば、バリアフリーバスの普及率や福祉有償運送の台数など。ただし、民間事業所を巻き込むことになるため、市の計画には位置付けにくいかもしれない。(P16)  
(事務局) ご指摘のとおり民間事業所を巻き込むため、担当課等と協議したい。
- (藤委員) 昨年、一体型放課後子ども教室校に関する会議に参加したが、市各担当課の連携

体制ができていないように感じた。こうした状態で目標である8校での実施が本当に可能なのか。(P58)

(事務局) 一体型放課後子ども教室校については、段階的に8校に導入していきたいと考えている。鳥栖市子ども・子育て支援事業計画にも位置付けており、モデル校を定めて先行実施していきたい。また、全教室の空調を整備したため、夏休み期間中でも教室の活用ができるようになっている。課題は、子どもたちを指導する人材の確保である。

(戸田会長) まちづくりの基本目標における、目標達成の姿について、「5年後」が削られているが、本計画に掲げる事業の目標年次は、ほぼすべて5年後なのではないか。(P3、P21など)

(事務局) 前期基本計画策定時に、鳥栖みらい会議からの提言を落とし込んでいったスタイルを残している。提言の内容には、5年後の理想と長期的な理想とが掲げられていたため、今回5年後を削除した。

(中村委員) すでに鳥栖市では、クロスロード協議会や観光、医療の面で近隣市町と連携して取り組んでいる。県境を越えた連携の取り組みは珍しいため、鳥栖市の先駆性を対外的にもっとアピールしてよいのではないか。(P97)

(事務局) 広域連携については、リーディングプロジェクト2に位置付けを行っており、観光における広域連携についても「観光基盤整備を行います(P82)」でふれているところである。

(徳淵委員) 先ほど名称を「九州の拠点、鳥栖の顔づくりプロジェクト」に変更するとされたリーディングプロジェクト2と、「ICTの活用」に親和性はあるのか。(P91)

(事務局) ICTの活用については、総合戦略にも掲げているテレワークや市の情報発信など、ほぼ全ての分野に関わってくるものであるため、リーディングプロジェクト2に位置付けを行っている。

(徳淵委員) 同じくICTについて、「情報化推進計画の進捗率」を指標にされているが、市民にとってはなじみのない数字であり、82%を85%へ上げるという目標が妥当なのかどうか分からない。(P92)

(事務局) ICTの分野は技術革新の速度が速く、計画を立ててもその通り行かないことが多い。計画内容の削除や見直しが多々あることから、微増ではあるが進捗率を85%に上げるという指標とした。

(戸田会長) 情報化推進計画に関する説明が必要ではないか。(P92)

(事務局) 説明を追加したい。

(徳淵委員) 同じくICTについて、「社会保障・税番号」については、「マイナンバー」に変更するべきではないか。(P91)

(事務局) 正式名称である「社会保障・税番号」のみを記載していたので、括弧書きで「マイナンバー」を追加したい。

(芹田委員) 「市民の声を広く聴く機会の充実を図ります」について、本当にやるのならば、「そのために、こういう広報活動に取り組めます。」などが続くべきではないか。パブリック・コメントを中心に書かれているが、例えば関係団体へのアンケートやヒアリングの実施など、市民の意見を反映させるための細かな取り組みも挙げてよいのではないか。(P90)

(戸田会長) この件は鳥栖市だけに限った話ではないが、形骸化しているパブリック・コメントを実質化する方法は考えていくべき。

(事務局) 市が各種計画を策定する際に必要な手順であり、意見募集の際にはパブリック・コメントを使わざるを得ない状況である。ご指摘の通り実質化は今後の課題である。

#### 4 土地利用計画について

(戸田会長) B-2の方針について、「新都市」でよいのか。もともと「北部丘陵新都市」という固有名詞であったのではないか。

(事務局) 表現について再検討したい。

(中村委員) C-1の方針では「アメニティの向上をめざす」とされており、Dゾーンで「アメニティのネットワーク化を図る」とされている。ホテル業で使用する「アメニティ」とも異なり、この場合は「快適性」の意味合いで使われているのかとも思うが、表現に若干違和感がある。

(事務局) 表現について再検討したい。

(徳淵委員) 地価が上がっている新鳥栖駅周辺の蔵上地区に特化して触れなくてよいか。

(事務局) 蔵上地区については、すべてC-1の生活環境整備地区に含め、「中心市街地」を「市街地」という位置付けに変更して整理した。

#### 5 今後の進め方について

- ・ 本日の審議をふまえて、10月29日から11月25日の期間でパブリック・コメントを実施。
- ・ パブリック・コメント終了後、11月下旬から12月上旬頃に第3回審議会の開催する。